

諫早市教育委員会議事録
令和8年第1回（1月定例）

令和8年第1回（1月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和8年1月27日（火）
14時05分～14時35分
- 2 場 所 諫早市役所 5階 大会議室
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 池 政信
学校改革推進室長 青木 信高
学校教育課長 山口 隆
生涯学習課長 松原めぐみ
- 5 議 題
議案第1号 諫早市立幼稚園規則の一部を改正する規則

議事録署名人の指名

山口委員と中野委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和7年第12回（12月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

1月ということで、年頭の御挨拶を書かせていただいた。特に、諫早市教育委員会では、今年度のテーマを、『挑戦と創造』～明るく 楽しく 面白く」とし、誰一人取り残すことなく、すべての学校で活力ある教育が展開されることを目指している。それを実現するために、「豊かな人間教育」「学力向上」「働き方（働きがい）改革」「ICTの活用・校務DXの推進」という4本柱を掲げて、子どもを真ん中にして「教職員の働きやすい環境整備」「学校、保護者や地域社会との一層の連携」を第一に考え、皆さんでスクラムを組んで、諫早市の子どもたちの輝かしい未来に向けて、全力投球をしていきたいと考えている。

「二十歳の集い」を1月11日に行い、約千人の出席者があった。大変寒い日で雪も警戒されたが、予定どおり実施することができた。今年は特に、記念品を廃止して、その分を、世界的な庭園デザイナーの石原和幸さんの生花パフォーマンスやUNO—NGSKの皆さんのブレイクダンスなどを取り入れた。こういう企画等は、全部実行委員会が中心となって決めていった。私が聞いた範囲では良かったと聞いており、いろんな面で反省をして来年も実施していきたいと思っている。

諫早市教育委員会指定の教育課程研究会本発表が、諫早小学校において、「豊かな子を育む教育課程のあり方」～算数科の授業改善を中心として～を研究主題にして、令和5、6、7年度の3年間に取り組んできた研究成果を発表された。当日は1年生と6年生の算数の授業があり、非常に良かったと思う。一番感じたのは、研究主任など一部の人たちだけでなく、諫早小学校全体で取り組んでいたことだった。その成果は学力向上という面に結びついていると思っている。元諫早幼稚園の園長で、現在、長崎大学教育学部附属幼稚園園長の高田敏彦先生による記念講演があり、「幼保小連携の重要性」を述べられ、幼稚園や保育園と小学校との緊密な結びつき、連携を図っていかねばならないと話され、小学校の先生を中心に聞いていただいて良かったと思っている。幼保小連携、小中、中高連携と子どもたちを点で見るのではなく、線で繋いでいくことが大事なことだと感じた。

1月の行事としては、始業式が8日に、出初式、二十歳の集いがあり、すまいる・スマイル展が、15日から21日まで美術・歴史館であった。これは特別支援学級の児童生徒の作品展で、非常にお客さんが多かったと館長から聞き、よかったと思っている。

中堅教員の研修会が23日に諫早市役所であり、諫早大村地区の11年目の先生たちが集まって、今の取組を発表された。さすがに10年経つと発表内容も非常に重厚な感じで、順調に成長されていることを感じた。

文芸コンクールの表彰式があり、中高生の詩、短歌、俳句、随筆などの作品が表彰された。諫早は多くの作家を輩出しており、「文学のまち」と言ってもいいと思う。私も冊子の中から作品を読んだが、非常にいい作品がたくさんあると思った。

部活動地域展開検討会が26日にあり、地域クラブの認定状況や8年度の取組の説明があった。8年度の4月から休祭日の部活動について地域展開していく。休祭日以外の月曜日から金曜日までの部活動は、従来どおり学校で行っていき、12年度末までに地域へ移行していきたい。今回の検討会のメンバーについては、休日、祭日の地域展開の見通しがたったので解散し、今後は平日について検討が必要となるため、新しい検討会を立ち上げる予定であり、どんな形にするかは模索しているところである。文化クラブについては、吹奏楽部ぐらいと考えているが、9月を目途に休祭日の地域展開をしていきたい。

給食交流会が森山東小学校であり、市長、議長、小野教育委員、私が参加した。給食も非常に美味しく、また子どもたちの元気な姿

が印象的だった。小野教育委員は4年生、私は6年生で、小学校での一番の思い出を聞くと、佐賀、熊本に行った修学旅行ということだった。

明日、1月28日に、14の中学校の子どもたちが、本市で初めて子ども議会を行う。他の市町村では、質問者が中学生で、市長などが答える形だが、諫早市は質問も答弁も子どもたち、中学生がすることにしており、これはちょっと画期的なことかと思い、今、詰めているところである。2時半から市議会議事堂で行い、最後にいじめ撲滅を宣言して終了したいと思っている。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

「二十歳の集い」の参加者に関して、報告では80%を超える参加者と伺ったが、諫早市在住と式典のために戻ってきた方の割合がわかるのか。

諫早小学校の研究発表、特に授業計画については、この間見学に伺った広島大学附属小学校と同じような熱量と感動を与えていただき、とても素晴らしいと思った。教育の流れに関しても、書くことの素晴らしさ、コミュニケーションを取ることの素晴らしさ、とにかく教育の基本をしっかりと実践して、授業を作られていると思った。

記念講演で「幼児教育とは、小さな基本を作るんだ」ということが、とても印象に残り、先ほどの教育長報告であった幼保小連携をすることによって、より子どもたちの育ちが、しっかりと根付いていくのだと実感した。

[生涯学習課長]

市内と市外での参加者のチェックはしていない。

住民登録で1,151人のうち、実際の参加者として、当日、資料を配った数が、986人で85.7%となっている。ただ、資料をもらわない方もいたので、もう少し参加者がいるのではないかと思っている。案内については、今まではがきを送っていたが、住民登録に関係なく、市外に住民登録を移した方、学生で市外に行かれた方、外国人の方でも参加できるようにアナウンスをしていたところである。

[委員]

二十歳の集いのために諫早市外からわざわざ帰省した子どもたちが、招待状がなかったことで、いつあるのか、インスタなどを細かくチェックしない子は友達伝いじゃないと日時がわからないという

こともあったようなので、アナウンスの方法がいろいろあっても良かったのかなと思った。

[生涯学習課長]

昨年まで案内を行っており、ちょうど切り替えたこともあり、そういった戸惑いをかけたかもしれないということも感じた。できる範囲の媒体、ホームページやインスタグラム、公式LINE、実行委員会のインスタグラムの立ち上げ、ナイス諫早などを活用し、市内の方にはいきわたったと思うが、市外からの参加の方たちが、確かに不安になった方もいたと思う。周知方法の課題の一つとして今後検討したいと思う。

[学校教育課長]

1年生も6年生も非常にレベルの高い質の高い授業を見せてくれたことで、参加した先生方には大いに刺激になったものと思っている。高田園長は、「任せることによって成長を見取ることができる」ということを一番に話したかったのではないか。小学校に入った途端、この型に入れ込もうとするのではなく、「小学校でもかけ橋プログラムなどで子どもに任せることによる伸びを見取ってほしい」というメッセージが私には一番伝わってきた。1年生はそのように授業が仕組んであったと思う。遊びの中から学びということで、遊びと学びの狭間の中で子どもたちは遊んでいるつもりだけれども勉強しており、学びが深まっていく。6年生において大変印象的な場面は、いくつかの方法の中から選ぶとき、昔であればみんなで話し合っ「こっちの方が早く、簡単で正確にできそうだよ」とみんなでやり方や良い方を選んでいたが、あの授業では、各自に方法を委ねた。そしたら「自分はこっちの方が正確にできそうだからいい」とか、「私は計算が好きだからこっちがいい」ということで、やり方を子どもに任せる、委ねるという授業だった。学力向上通信で各学校に配信するところなので、今後、各学校でも「委ねる教育」がなされていったらいいなと思っているところである。

議 事

議案第1号 諫早市立幼稚園規則の一部を改正する規則
教育総務課長 説明

《教育総務課長の説明に対する質問・意見》

[委員]

ニーズはありそうか。

[教育総務課長]

預かり保育については、これまでもやってほしいという声があったと聞いており、園長もぜひ実施したいという考えである。また今回新たに、預かり保育とは別に、3歳になった次の月から保育ができる満3歳児保育のシステムを実施する予定にしている。諫早幼稚園の保育体制を充実させて、園児を増やしたいと考えている。

可決

その他

教育総務課長

- 1 2月の定例教育委員会の日程について
- 2 3月の定例教育委員会の日程について

14時35分閉会